

開催地名：富山県射水市	
開催日時	令和 5 年 2 月 12 日（日） 13：30 ～ 15：00
開催場所	高周波文化ホール
語り部	高橋 進一 （千葉県旭市）
参加者	自主防災組織、自治会、防災士、消防団、一般募集、市職員 160 名
開催経緯	<p>当市では、今後予測されている呉羽山断層帯による地震など災害の発生に備え、市民の防災意識向上にむけて防災講演会や防災啓発講座を実施しているが、十分にその危険性や事前準備の必要性を伝えることが出来ていない。</p> <p>また、当市は沿岸域を有するため津波被害も想定されているが、富山県が災害の少ない県であることから体験談や教訓などを交えての講演の実施は難しく、実際に災害の発生を想定できるような危機感の醸成が難しい。</p>
内容	<p>（１） はじめに</p> <p>今から約 300 年前の 1703 年に、元禄大地震が発生した。深夜に発生したこの大地震は、マグニチュード 8 前後で、それに伴う大津波は高さ 5 ～ 10 メートルにも達し、房総半島沿岸一帯に甚大な被害をもたらした。特に九十九里から外房の村々では、この津波で多くの死者を出した。九十九里浜での犠牲者は 2,000 人、私の住む飯岡地区でも 70 人が犠牲になった記録が残っている。しかし、東日本大震災発災時には、地元の住民もこの事実について知らない人がほとんどだった。日本各地で、様々な災害が発生してきたことと思うが、我々はその歴史を記録に残し、後世に語り継いでいくことが必要である。そうすることが、いつ起こるかかわからない災害に対する戒めになり、備えや防災につながるはずだ。</p> <p>（２） 震災発生時の被害状況</p> <p>2011 年 3 月 11 日の午後、大きな地震が発生した。立ってられないほどの揺れが長い時間続いた。私の家は海岸からほど近いところなので、海の様子を見に行った。津波が来ることを確信していたので、避難するように呼び掛けたが、海の様子を見に来ていた多くの住民は避難しなかった。</p> <p>地震発生からおよそ 2 時間半後、最大の津波が押し寄せた。津波は堤防を越え、町を大きく飲み込んでいった。多くの人たちが一時避難所に避難した。停電や断水が続く中で、余震も継続して発生し、住民は寒さの中で不安な夜を過ごした。私は地区の要支援者や自分の親を避難させると、銚子に買い物に出かけていた妻と息子を内陸部の避難所で偶然見つけることができた。家族で過ごした 3 月 11 日の寒い夜をはっきりと覚えている。</p> <p>津波以外にも道路の陥没や地割れ、家屋の半壊や屋根瓦の落下など、多くの被害が発生した。さらに、液状化でも大きな被害が発生した。地盤が一旦液状化したところでは、二次災害の恐れが大きいと言われている。旭市の被害状況は死者 14 人、行方不明者 2 人で、住宅被害は 3,827 世帯に及んだ。住宅被害のうち、床上浸水が 677 世帯、床下浸水が 277 世帯、液状化 774 世帯、特に被害の大きかった飯尾地区では、この他にも津波による建物等の倒壊等で道路が通行不能になったり、漁船が転覆する等の被害を受けた。</p>

私たち家族は親戚の家に移り、毎日瓦礫の片づけを行った。やってもやっても瓦礫は減らず、とても苦労したが、ボランティアの方々の助けは大きく、非常に有難かった。私の家が、津波被害からようやく住めるようになったのは5月に入ってからだった。

(3) 震災を振り返って

東日本大震災発災時、自分がどう行動すべきなのかわからず、知識はあっても、最低限の備えはしていても、結局は何もない状態からの対応となったことは否めない。事前に準備・想定していた町内会単位での避難はできず、近隣の数世帯ごと、家族単位、個人単位での避難がほとんどであった。これが現実である。

また、家族で防災についての話し合いをしていただき、避難場所や携帯電話不通時の相互の連絡方法などについて確認しておくことも重要であるし、非常時に持ち出すものを、日常使うものとは別に準備しておく必要がある。中でも、食料より大事なものは水である。1人1日2リットル、生活するために使う水は3リットルと言われているが、量販店で売っているペットボトルを家族分だけは準備しておいたほうが良い。

そして東日本大震災では、想定外のこともたくさん発生した。自治体で作成されたハザードマップを信用して安心せずに、災害に想定外はつきものだということを意識していただきたい。

東日本大震災では、200人以上の消防団員の方が亡くなり、民生委員の方も40人程亡くなったと聞いている。私はあの震災を受けて、自分の命が第一であると考えようになった。まず守るのは自分の命であり、次に困っている人を助けるのが順序である。命を守ることはすべてに優先する。自分が負傷したり、命を落としたら、家族や友人を誰も助けることができない。不用意に危険な行動をとらずに、必ず安全を最優先したうえで活動していただきたいと思う。



開催地より

非常にわかりやすいお話で、参加者は皆熱心に聴いていた。「普段できないことは、非常時でもできない。」という言葉が印象に残った。今後当市としては、実体験の話は効果的なので、地域で開催する出前講座でも避難所を開設した事例等を盛り込んでいきたい。